

【随筆】

晩秋点描

住吉 尚

(釧路支部)

新型コロナウイルス感染症で大騒ぎをしていましたが、なぜか突然患者数が減少に転じましたね。これがもう3カ月早ければ、オリンピックはもっと盛り上がったものを！と、歯ざしりをしている人も多いのでしょうか。コロナ感染症もこのまま終息に向かうのかどうかはまだ分かりませんが、「もう勘弁してほしい！」との思いは皆同じですよ。さらに、海の中まで異常な世界が広がっているとは驚きです。赤潮騒ぎは当初には海水温の温暖化の影響か？と思われていましたが、どうやら赤潮の原因プランクトンは親潮に乗って、千島列島沿いに南下して来たと言います。それにしてもウニの被害は大変なものようですね。海底にいるウニと、比較的海の表層を泳ぐサケに被害が出るというのはどうしてでしょう？しかもそれ以外の魚には大きな被害がないようだ、とのことですが不思議な現象ですね。私の釣果の方は赤潮の影響かどうかは分かりませんが、この夏以降はさっぱりです。釧路港の漁獲量でもイワシは獲れています、サンマは今年もさっぱりとか。



イワシの水揚げ

最近の気候を皆さんはどう感じていますか？私には、最近の気候はどうも振幅が大きいような気がしていますが、皆さんはどうでしょう？とても暑い日が続いた後、寒くなると突然氷点下です。ただ10月もう後半ですから、気温が下がるのは当たり前と言えればそれまでですね。

こんな気候のためでしょうか？今年もポプラが黄金色に紅葉しているのですが、一部はずいぶん橙色が強い紅葉になっています。そして林全体が一斉に紅葉しなくなり始めているような気がします。ご存じのように、植物は葉にある葉緑素で太陽の光をエネルギーにして、炭酸ガスと水からブドウ糖を生産して成長エネルギーに使っていきますね。でもこの葉緑素を作るためには窒素化合物が必要なのです。でもこの窒素化合物は植物自身では作れません。それでこの貴重な窒素化合物が葉が枯れる前に回収して、来年に使おうとして葉緑素を分解します。このため、植物の葉は緑色を失います。そうすると、残った黄色や褐色が目立つようになり、これが紅葉と言う訳です。では何で黄色や褐色が葉にあるのかと言えば、それは葉緑素を光から守るためなのです。おや！光からエネルギーをもらうのに何で？とお思いでしょうが、葉緑素を持つ植物は海の中で発生し進化してきました。そのため、あまりに強い光には弱いのです。特に紫外線のように波長が短い光は、水中ではあまり深くまでは届きません。陸上では強すぎて葉緑素が破壊されるので、遮光のために黄色や褐色が役立ちます。浅い海に育つ昆布やワカメを茹でると、とてもきれいな緑色になりますね。熱で表面の褐色の色素が分解され、中の緑色の見えるようになったためです。またお茶の木を遮光ネットで覆うと、光が弱くなるので黄色や褐色の色素があまり必要でなくなります。そして葉が少し大きくなり緑色が濃くなります。こうして作られた茶葉を玉露と言います。話がそれましたが、今年のポプラの紅葉が黄金色より濃い橙色に見えるのはどうしてでしょう？私には良く判りませんが、赤く紅葉する植物の赤い色素は、葉の中に残った糖分が別の物質と結合して赤い物質を作るのだそうです。なぜわざわざ赤い色素を作るのかは判っていないようで



ずいぶん赤いポプラの紅葉

す。黄色く紅葉するポプラでも、葉の中に糖分が多いと赤みが強い紅葉となるのでしょうかね。

一方で、山々は見事な紅葉で飾られていると言うのに、私はこのところ下を向いて釣りばかりしていました。それはもうすぐ飯寿司を漬ける時期だというのに、漬ける魚がないからです。おまけに釣りの腕も悪いためでしょうか、さっぱり釣果が上がりません。仕方なく回数でこなそうと頑張りました。でも釣れない時にいくら頑張ってもダメなのが釣りと言うものです。と言うことで「たまにはバードウォッチング!」と、月曜日に十勝川河口橋まで行ってみました。厚内を過ぎ、丁字路を曲がって、坂を上りきると十勝太に向かって長い下り坂となります。今日は大変天気が良く、雲ひとつありません。広い十勝平野の向こうには北から南まで延々と日高山脈が続いています。北半分は頂上に雪を頂いて白く輝いています。南の方は高度が下がるためでしょうか? 遠くて見えないだけでしょうか? 灰色のシルエットがうっすらとどこまでも続いているのが見えています。浦幌十勝川を渡ると、道路の左右を見ながら行きますが、直ぐトイトッキ浜原生花園入り口の標識があるので左折します。すると道路の左右にガンの群れが見えてきます。マガンとヒシクイが多いのですが、中にシジュウカラガンが混ざっています。ハクチョウもたくさんいて、地面に嘴を突っ込んで食事中的ようでした。私はいつものように畑を2区画ほど行ってから戻って来ます。畑はほぼ収穫作業が終わっているようで、ピートやジャガイモは畑の隅に山のように積まれていて、大型トラックで盛んに運んでいるのが見えました。そしてもう吉野から河口橋に行く国道の交差点です。ここの反対側の農地にたくさんのハクチョウ、マガン、ヒシクイ、そしてタンチョウも。このタンチョウはヒナ1羽連れの家族で、ヒナには6月に付けた402の足輪が付いています。やっとの思いで足輪を付けたヒナが元気になっているのを見るのは良いものです。「来年も頑張ろう!」との思いで私自身も元気が出るというものです。オオハクチョウは今年生まれの灰色のヒナをたくさん連れていきます。シベリアの天候も良かったのですかね。今走って来た十勝太から河口橋に向かう道路の右側には、数百羽のハクガンが降りてくるのが見えました。真っ白い翼がひらひら輝いてそれはそれは美しいものです。どうやらこの道路上からは見えませんが、三日月沼と言う沼がありますから、そこに降りたのでしょうか。でもこの沼に降りてしまうとどこからも見えなくなってしまうから、今日はハクガンを近くから観察するのは諦めました。ハクガンは翼の先端だけが黒く、あとは全



ハクガンの群れ

身が真っ白な大変美しいガンです。

私は動物園に勤務していた頃、子供たちの質問によく答えていましたが、動物の色についての質問に答えるのが一番苦手でした。これは動物の保護色と言う考え方には私自身が疑問を持っていたためです。捕食する側の色は確かに目立たない色をしている動物が殆どですから、目立たない色や模様が大事なのでしょう。でも捕食される側の色は様々です。もちろん目立たない色や模様の動物もいます。でも目立つ色の動物も結構いますよね。シマウマの縞は最近ではハエが止まりにくい色だという説が有力です。でもそこには茶色一色の動物やら、大きな網目模様の動物やら、ほとんど黒っぽい動物もいますから、その色でなければならぬ理由にはなっていません。もちろんですが、体色は自分自身が色を識別できなければなりませんし、捕食する側が夜行性なら捕食される側の色はあまり意味がないかもしれません。こんな場合は色の濃淡の方が色そのものより重要なものかもしれません。

ところで、現存するハクガンはそのほとんどが極北のウランゲル島と言う島で繁殖します。でもハクガンの繁殖期にはこの島でも雪が融けて、緑の中で繁殖するので。そしてウランゲル島に雪が降る前に日本などの暖かい地方に移動します。そこには雪がないことが多いので、白い色は夏も冬も目立つだけです。これはタンチョウやオオハクチョウも一緒ですね。一方で体色については「さすがに!」と思わせる動物も多く、その代表はライチョウです。これは冬になると真っ白く、夏は茶色ですからこれこそ本物の保護色ですね。こんな変化を見せるのはノウサギやオコジョも同じです。確かに捕食する側の動物は充分目立たない体色をしていることが多いようです。でも捕食される側はそれほどでもありません。これは捕食者に対して、我々が考えているほど神経質には

なっていない、ということなのでしょう。両生類や爬虫類では青や緑色の体色は普通で、鳥はとてもカラフルですが、哺乳類は地味ですね。哺乳類でも皮膚が赤や青に見えるものはいますが、毛の色には青や緑はありませんね。こうして動物界全体を見渡すと、動物の体色に普遍的な意味を考えるのは無理があるかもしれません。個々の種にとってどんな意味があるのか？なのでしょう。

森の木々はほとんど葉を落とし、すっかり冬を迎える準備ができています。コロナ禍も終わったと言ってよいのでしょうか？ 釧路周辺でも遠方のナンバーを付けた車も多く見るようになりました。皆さんも少しずつ日常を取り戻そうとしているようです。でも車の運転には気を付けてください。今時期のシカは栗色の夏毛から枯葉色の冬毛に変わっていますから、積雪前のこの時期は発見が遅れやすく、大きな事故になりかねません。私もカーブを曲がった途端、道路左側から大きな角を持った雄ジカが道路上に出てきて、慌ててブレーキを踏みました。ハンターにでも追われていたのでしょうか？ 私の車の方はあまり気にしていないように見えました。道路を越えてどこかへ行こうとしているようで、走り去りましたが、大きな雄ジカにぶつかると車も無事では済みません。皆さんも十分気を付けた運転をしてくださいね。

にして獲物を捕らえますから、ワシが来ると水鳥は皆上空へと飛び立ちます。これが空中で獲物を捕るハヤブサなら水面から飛び立ちはしません。ただオオハクチョウはオジロワシがいても飛び立ちませんでしたから、捕食者の力量は分かっているようでした。



飛び立つヒシクイ



冬毛のシカ

日曜日の午後から、ちょっとその辺と言うことでシラルトロ湖まで行ってみました。この日のシラルトロ湖にはヒシクイ、オオハクチョウ、オオバン、その他カモ類と賑やかなものでした。ヒシの実を食べようと水中に逆立ちしているヒシクイの写真を撮ろうとカメラをのぞき込むと、なぜかヒシクイは全て飛び立とうとしています。空を見上げると、大きなオジロワシが上空に。なるほど！ヒシクイはオジロワシが上空から水面に押し付けるよう

〈句題〉 冬至

「衣脱ぎ千手の骨で山眠る」

「左党今日は柚場に南瓜汁」

「古家主覚悟決めたる雪催」



(室蘭市 白波瀬 稔歳)